

■特別支援教育講座

「竹田契一先生 講演」 特集号 PART 1)

10月6日(土)に開催した講演の中から一子どもを理解するとはー



大阪教育大学名誉教授
日本LD学会常任理事

① 「できない子がいたときに、まず何でできないかを分析する眼をもってほしい。」

例えば

1対1では、それほど困ることのない子どもでも「集団行動に遅れをとる」という様子が見られることがある。その場合「のんびりしている子」という理解だけでなく、次のような見立てをすることが重要である。

- ① ことばの聞き分けができていないか。
- ② 「聞かなければ。」という注意力が不十分ではないか。
- ③ すべき行動を頭の中で順序立てるのに時間がかかるのではないか。

子どもの様子を科学的に見つめていながら、温かいまなざしで子ども理解を進めることこそが、発達障がいのある子どもたちにかかわる養育者に求められている大切なことである。そして、一歩ずつ忍耐強く歩んで行くことこそが、最終的に大きく花を咲かせることになる。将来のビジョンを持つためにも、個別の教育支援計画の作成は意味がある。

② ADHDの根本的問題は自己コントロールする力が弱いこと

- ・ 目先のことを優先してしまい、先を見通して計画することが苦手である。
- ・ まわりの刺激に考えないですぐ反応してしまいがちである。
- ・ 事前に「予測する。」「イメージする。」ことが苦手である。

③ 落ち着かない行動への対応

- ・ 授業の前に身体を動かす活動を取り入れる。
- ・ 目の前に子どもの気が散りやすい物を少なくする。
- ・ 集中できる時間は5～10分程度と考える。
- ・ 視覚的な提示を多くする。

④ 友達に乱暴する、キレやすい子への対応

- ・ 自分自身をコントロールできるようにサポートすることが、支援の基本である。
- ・ まず、キレる兆候(サイン)に気づく。
- ・ 体罰は絶対やめる。(虐待されている子は友達に同じことをする場合が多い)。
- ・ 緊張すると混乱しやすく、場面理解が悪くなる。(カードで具体的に視覚的に示すとよい。)
- ・ 次に何をしたらいいか、見通しをつけてあげる。
- ・ 「できたら褒める。努力したら褒める。」ことで、自信を持たせる。
- ・ 落ち着いてから『話し合う』フォローアップが大切である。